

「電気の世界を変える」ため、SDGsを指針に
より良きエネルギーマネージメントを追求

豊かな発想でSDGsを実践

株式会社電巧社は、ビルや工場・商業施設向けに電気設備を提供し、配電盤製造や省エネ支援などの事業を展開する。「電気のコシエルク」を自任する企業だ。事業とSDGsのつながりが非常に強く、代表取締役社長の中嶋乃武也さんはこう説明する。

「自社ビルで使用する電力を遠隔地の太陽光発電したもので賄う、カーボネガティブ[※]を意識した取り組みを行っています。そして、この仕組みを、遠隔地型自家消費太陽光発電システムとして商品化しており、『HOMEMADE ENERGY』

というブランドとして販売もしています。ほかに、接着施工できる超軽量太陽光発電モジュール「フレキシブルソーラーG+」など、サステナブルな商品や製品を多く開発。今年、青森県六ヶ所村に建設したウインド・ソーラーは、風車と太陽光との協調発電を実現し、約3500トンのCO₂（二酸化炭素）排出を抑制する見込みです」

社内での取り組みは、ユニークで際立っているものが多数ある。東京・芝浦

にあるサテライトオフィスでは、使用電力が一定ラインを超えそうになるとパライトが回転してサイレンで通知。これは電力を自動制御するEMSという装置で、社員に見える化する。これによって電力削減を意識付けするものだ。ヘッドオフィスの植栽には果樹だけを植え、有事の際には誰でも食べられるような飢餓対策も。全国の社員と家族、OBが集合し、社員の絆作りのために力を入れている交流イベントは「SDGs・BBQ」と称して、フードロス・ゼロやゴミの減量と分別、プラスチック製品の不使用なども楽しみながら徹底している。

「東日本大震災を転機として、当社のビジネスは省エネ支援のみならず、エネルギーを自社で創る「創エネ」、蓄電池を使って電気を蓄えるなどの「蓄エネ」へと広がり、SDGsの取り組みへとつながっています。あわせてDX&GXの推進によりビジネスに相乗効果を発揮させ、全てのステークホルダーに対して時代をリードした付加価値の提供をすることを課題に掲げています。SDGsの17の目標は、その課題解決の指針と捉えています」

※二酸化炭素を含む温室効果ガスの排出量よりも吸収量が多い状態のこと



株式会社電巧社
所在地:東京都港区
代表取締役社長:中嶋 乃武也
創立:1928年



事業内容:電気機器の販売・保守・整備、省エネルギーに関する提案・補助金申請の代行、再生可能エネルギーに関する製品の企画・開発、配電盤の製造、各種工事、ソフトウェア開発など
URL:<https://de-denkosha.co.jp/>



軽くて薄い太陽光発電モジュール「フレキシブルソーラーG+」。



六ヶ所村ウインド・ソーラー協調発電所は2023年3月より運転を開始。



社員間の交流のためのBBQイベントは300名規模で開催。